

## 会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回戸田市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年8月29日(木) 午前10時～午後0時15分
開催場所	新曽南庁舎 2階 さくらパル会議室C
会長氏名	石井 晴夫
出席者名(委員)	石井会長、宮田副会長、酒井委員、古井委員、畠委員、石田委員、大貝委員、芳賀委員、前野委員
欠席者名(委員)	吉川委員
傍聴人	なし
事務局	水安全部長 渡邊 昌彦 水安全部次長兼総務課長 東口 俊博 水安全部次長兼水道施設課長 山老 英巳 下水道施設課長 寺尾 亮 他職員4名
議 題	審議1「水道ビジョン及び下水道ビジョン(令和5年度分)評価について」 報告2「令和5年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について」 報告3「令和6年度戸田市上下水道事業予算について」 報告4「水道料金等の改定について」
会議結果	審議1「水道ビジョン及び下水道ビジョン(令和5年度分)評価について」 施策評価について、事務局案を承認。 報告2「令和5年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について」 令和5年度上下水道事業包括委託モニタリング結果について報告。 報告3「令和6年度戸田市上下水道事業予算について」 令和6年度戸田市上下水道事業予算について報告。 報告4「水道料金等の改定について」 水道料金等の改定について報告。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

発言者	内容
事務局	<p>【開会】</p> <p>【水安全部長挨拶】</p> <p>【委員紹介】</p> <p>【事務局紹介】</p> <p>【会長・副会長の選任】</p> <p>【会長・副会長の挨拶】</p> <p>【資料確認】</p> <p>【委員出欠状況報告】</p> <p>委員総数 10 名のうち、半数以上の 9 名が出席したため、戸田市上下水道事業経営審議会条例第 5 条第 2 項の規定により会議成立。</p>
事務局	<p>【戸田市上下水道事業経営審議会について説明】</p>
議長	<p>【議事】</p> <p>案件 1 水道ビジョン及び下水道ビジョン（令和 5 年度分）評価について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>【「令和 5 年度水道ビジョンの評価」について説明】</p>
事務局	<p>【「令和 5 年度下水道ビジョンの評価」について説明】</p>
議長	<p>上下水道ビジョンについて、事務局から説明していただいたところであるが、これまでの説明について何か意見・質問等があったらお願いしたい。</p>

委員	この評価が個別評価であることは理解したが、例えば前年度との比較や全体評価としてどのような評価を行っているのか。
事務局	事業評価は毎年行っている評価とビジョンの計画期間の中間年と最終年に総合評価を実施しており、時系列に基づいた評価についてはそちらで確認できるようになっている。
議長	今の委員の指摘は非常に大切なところであり、他の事業体でも時系列で評価を行っている。今後可能であれば、評価開始時から時系列で評価が見えるようにしてもらえると全体像がわかりやすくなると思う。
委員	水道ビジョンでは、水道管の耐震化率が数値で示されているが、下水道管はどのようなになっているのか。
事務局	下水道管については、ビジョンを策定した平成28年度の時点では、耐震化を進めるという体制ではなかった。水道と違う点は、標準耐用年数が水道管は40年に対して下水道管は50年とされており、比較的下水道管の方が強いが、そうは言っても布設から50年経過するため、耐震化を進めていく計画を策定することを現在のビジョンの中で目標として掲げ、耐震対策計画を策定した段階である。現在は、その耐震対策計画に基づき管路の耐震化を進めている状況である。
議長	水道管は飲み水に使用するため、法定耐用年数40年と決められており管路の重要性は高い。一方、下水道は汚水の処理がベースであり、処理水であるため、耐震についての考え方が上水と下水の間でかつては差異があった。そのため分かりづらい部分もあるので、今後はコメント欄などで補足説明などしてもらえればありがたい。
事務局	水道管は割合を数値化しているが、下水道管の耐震化は始めたばかりであるため数値的なものではなく、少し分かりにくいところがあった。下水道の耐震化という考えが遅れていたため、実際のところ耐震化率は15%程度で

委員	<p>ある。今後は、数値などを分かりやすく示していきたい。</p> <p>下水道ビジョンで個別評価Bとしている内部留保資金について、18億円の目標に対し、実際のところは11億5,000万円だったとすると、その約7億円の差し引きは目標に対して何が足りなかったのか、どういったことで目標達成できなかったのかということについて、何らかの分析をしているのか。</p>
事務局	<p>18億円については、今後の更新のペースや建設改良費に係る財源として計画を立てたが、目標未達成の要因としては、特定収入仮払消費税の増加（現在進めている雨水貯留管の補助金に関するもの）が挙げられる。これに関しては経理上の細かい部分になるが、今までその他の雑支出に一括して計上し、その分が純利益を圧迫していた。これについては、経理の仕訳においてその他の雑支出に一括して計上するのではなく、収入から相殺するという経理の仕訳にすることで、純利益も回復が見込めるところまでは分析をしている。現状下水道についても、社会情勢や資材、人件費の高騰により、当期純利益は減少傾向にあることは把握している。また、県の維持管理負担金や建設負担金についても影響が出ており、そういった部分を加味していくと、現状のままでは内部留保資金18億円は厳しい目標となっている。現在、令和6年度から令和7年度にわたる次期ビジョンの策定業務が始まった段階なので、その中で目標設定を再度見直した上で、計画を立てていければと考えている。</p>
委員	<p>18億円をベースに何か別に充てこむ予定があるのかどうか、それが約7億円少なかったことで影響があるのかどうかという観点で質問したので、状況については理解した。</p>
議長	<p>目標設定値である18億円がどういう根拠なのか、難しい問題である。要するに、利益というのは積立金なので適正な水準というのは難しいが、今の戸田市の規模からすると下水道事業の内部留保資金18億円は極めて少ないと言える。今後、一挙に下水道管渠の更新や処理負担金が増えてくる。その時に現在の下水道使用料で対応できるかどうかという点も甚だ疑問である。そういう状況を踏まえ、下水道ビジョン策定業務の中でも相当検討して、ま</p>

	<p>たこの審議会の中でも委員から忌憚のない意見を伺い、進めていただければと思う。</p>
委員	<p>上下水道もそうだが、広報に掲載されている講座のようなものにも参加してもう少し勉強していきたいと思う。</p>
委員	<p>内部留保資金の目標値 18 億円に足りていないというところで、今後も資材の高騰は引き続き続いていくと思うので、計画の練り直しや財源の問題についてはどうなっているのか。</p>
事務局	<p>現在の水道ビジョンと下水道ビジョンはそれぞれ独立した計画であるため、令和 8 年度から始まる次期ビジョンについては上下水道ビジョンということで、統合して統括的に運用できるようにしていく。次期ビジョンについては財政事情や更新事業などの数字的な部分に特化して、実践的なビジョン策定を現在検討している。そのビジョンについては、逐次この審議会でも策定の経過状況について報告して、意見をいただきながら、より戸田市の現状に沿ったビジョンになるように進めていくので、皆さんには改めて意見をいただきたい。また、需要額については、両ビジョンを策定した平成 27 年度、28 年度頃は、水の需要が高まっていた時期であったが、現在は減少傾向に転じているため、計画策定時の見込みが甘かったと認識している。</p>
委員	<p>下水道ビジョンで目標値 18 億円の内部留保資金に対して実際が 11 億 5,000 万円であるということは、約 6 億 5,000 万円足りないため、今年度の経常利益 3,000 万円から計算すると目標達成までに 20 年以上かかることになる。上水道の料金改定については、議会で審議中であるが、上水に加えて下水も改定が必要な状況である。それらを踏まえ、現在策定中のビジョンにも盛り込み、市民に対しても料金改定は必至だということを審議会や出前講座、広報などを通じて啓発していただきたい。</p>
委員	<p>水道事業のシートの内、特に災害対応の部分で、資料 2 - 2 : 2 - (4) で基幹施設・基幹管路の耐震化だが、耐震化率が全国平均より高いと思っているが、目標値は令和 7 年度の数値として捉えてよいのか。また、全国的に</p>

事務局	<p>比べて高いとは思いますが、年間の耐震化率はどれくらいの割合になのか。</p> <p>令和5年度の耐震化率については、年間で施工延長が約960m程度なので、前年度比で約0.3%ずつ増えている。耐震化率を上げていきたいが、費用の問題や工事を設計、施工する監督員の職員数の問題もあり、なかなか耐震化率が伸びないというのは、戸田市だけでなく、全国的に同じようなことが言えると思う。</p>
委員	<p>全国的に人手不足と更新施設の耐震化費用の不足という問題は同様であると思う。しかし、非常に大事な部分なので、今後適切に更新率を上げていく必要がある。特に大口径は高めであるが、目標値も非常に高い数字を求めているので、予算の関係もあると思うが速やかに耐震化を進めてもらえればと思う。</p>
議長	<p>先ほど、事務局からの説明で、下水道ビジョンの事業評価の中で、施策6 - (18) ②雨水貯留管の整備について、数値目標を「令和6年度末完成」から「令和7年度末完成」に変更したい旨の説明があったが、この施策6 - (18) ②の項目については、数値目標を来年度以降「令和7年度末完成」とすることを承認するという事によろしいか。</p>
各委員	<p>【異議なし】</p>
議長	<p>最後に、令和5年度上下水道ビジョンの評価については、資料2の事務局案を公表することとしてよろしいか。</p>
各委員	<p>【異議なし】</p>
議長	<p>続いて、案件2 令和5年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>【令和5年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果についての説明】</p>

議長	<p>事務局の説明が終わった。</p> <p>説明について、何か意見・質問等があったら、願います。</p>
委員	<p>評価項目がすべてBで総合評価Ⅲということで分かったが、これは受託者側から見たときには制度としてインセンティブやペナルティが伴うものなのか。</p>
事務局	<p>評価が低かった場合には、業者に改善計画書等を提出してもらうことになっているが、評価が良かった時のインセンティブ等はない。</p>
委員	<p>この制度の目的として実施すること自体はけん制機能として大事なのだが、その結果が活かされていないということと、もう少し何かしらの受託者に対するインセンティブを設けることや、ペナルティもどのような基準からどういう時に与えられるのかを明確にしておいた方がより改善されると感じる。</p>
議長	<p>全国的な課題と言えるが、性能発注の場合は、インセンティブを持たせないと、より良くしようという受託者側のモチベーションが高まらない。それをどうやって引き出すかというのが最大の課題で、委員の指摘はすごく大事なところである。今までは減点方式での考え方が主流であったが、今後は戸田市民のためのあり方を考えて、より良い提案をしてもらうという工夫が大切である。今後は、性能発注の本来のインセンティブを持ってもらえるような、例えば市長等からの表彰状や功労賞など目に見える形でインセンティブを与えることが大事だと思う。ぜひ、委員の指摘を今後踏まえてもらえればと思う。</p> <p>続いて、案件3 令和6年度戸田市上下水道事業予算について、まず、水道事業会計予算について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p><b>【令和6年度水道事業予算についての説明】</b></p>
議長	<p>ただいま、水道事業会計予算の説明が終わった。</p>

	<p>続いて、下水道事業会計予算について、事務局から説明願いたい。</p>
事務局	<p><b>【令和6年度下水道事業予算についての説明】</b></p>
議長	<p>ただいま、下水道事業会計予算の説明が終わった。 続いて、案件4 水道料金等の改定について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p><b>【水道料金等の改定についての説明】</b></p>
議長	<p>ただいま、水道料金等の改定についての説明が終わった。 説明について、何か意見・質問等があったら、願います。</p>
委員	<p>予算の関係で、管の老朽化や耐震化で、配水管を替えなければいけないが、そのときの予算は1 mあたり 50 万円強ぐらいである。1 km実施して5億円の計算となるので、0.28%の更新率のため、残りの約325 km実施すると1,600億円を超える費用がかかることになる。毎年の給水収益20億円では、0.28%の更新で300年以上かかることになる。さらに300年かけて更新してもその間にまた管が老朽化していく。現在、断水させずに給水するために仮配水管を作り、本管の入れ替えを行った後仮配水管を取って本管に繋げるという工法で、コストも時間も二度手間となっているように感じる。これを一時的に断水し、その間は給水車等で対応することで、直接本管の入れ替えを行うとコスト面においても工期においえも効率性が上がると思うが、そういった工法はできないのだろうか。断水を伴うのでメリット、デメリットを市民に説明し、代わりに例えば水道料金の改定額は大幅に抑えることができれば理解も得やすいと思うが、その辺りはどう考えているか。</p>
事務局	<p>戸田市の場合は市街化が進み、人口もかなり密集している。中山間地のようところで断水を行い、本管を直接入れ替えていく工法ができる地域もある一方で、市街化された場所ではできないところもある。各家庭に給水管という管路があるので、つなぎ替えの時は一時的に水を止めなければいけないが、戸田市では濁り水も出さないように仮配管をし、耐震管の継ぎ手を入れ直す工法でしかできない状況である。また、ダクタイル鋳鉄管ではなくより</p>



	<p>安価な硬質なポリエチレン管も耐震化に資するというので、国に認めても らっているが、戸田市の場合は、地下水位が高いという地域の特色があるの で、安価な工法で管の耐震化や老朽管の更新を行っていくというのが難しい 状況である。今後、委員からあった意見については設計コンサル等交え、費 用を抑える工法はないのか検討していきたいと思うが、現状は厳しい状況に なっている。</p>
<p>委員</p>	<p>最初からできない、無理だろうではなく、市民としては、長期持続的な、 ある程度一定のコストメリットがあるような単価が安い水道供給が享受で きるのであれば、一時的な断水についても、メリットやデメリットを提示し た上で理解を得られる可能性もあるので、色々とチャレンジしてもらいたい と思う。今のままでは課題は遅々として進まない。結果的に管路の更新に 300 年かかるようでは大丈夫なのかとってしまうので、ぜひ前向きに検討して もらいたいと思う。結果として無理なら仕方ないが、そういうこともしっか りと議論をしてもらいたいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>本日の議事は以上となるため、進行を事務局に返す。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>【閉会】</b></p>